

会議

アドバイザー会議を実施しました！



ミツカン東京ヘッドオフィスで実施したアドバイザー会議

2022年9月にアドバイザー会議を実施しました。3名のアドバイザーに本年度前半の活動について報告。また、2023年度の活動計画案をお伝えしたうえで、活発な意見交換を行ないました。

ご参加いただいた沖大幹さん、陣内秀信さん、鳥越皓之さんからは、さまざまな視点でセンター活動全般に関するアドバイスをいただきました。

アドバイザーの方々のご意見を参考に、2023年度以降のセンター活動をより有意義なものにするよう努めてまいります。

調査

「水にかかわる生活意識調査」HPで公開中

1995年に調査を開始した「水にかかわる生活意識調査」は、日常生活と水のかわりや意識を明らかにすることを目的とした定点調査です。28回目を迎えた2022年度は、東京圏（東京、神奈川、埼玉、千葉）、大阪圏（大阪、兵庫、京都）、中京圏（愛知、三重、岐阜）の在住者1500名を対象に実施し、集計結果をHPで公開しています。

近年は生活者と水の距離が遠くなっている傾向が見られるため、今回の調査では水への関心や感謝、水に関する体験や経験など、水そのものに対する意識と実態を把握するため、生活者の水への関心度をより浮き彫りにする設問を追加するなど設問構成を見直しました。また、調査結果に関して、今回も当センターのアドバイザーである沖大幹さんに解説していただきました。

まだご覧になったことがない方には、ぜひ一度目を通していただければと思います。



<https://www.mizu.gr.jp/chousa/ishiki/2022.html>

イベント



「ミツカンの水づかいプロジェクト～栃木工場篇～」開催

栃木工場でのワークショップと栃木工場の見学。円内は講師をお願いした水ジャーナリストの橋本淳司さん

2022年9月、ミツカングループ社員向けの企画として「ミツカンの水づかいプロジェクト」を実施しました。

講師に水ジャーナリストの橋本淳司さんを迎え、オンライン講演（9月5日）と、ミツカン最大の食酢生産量を誇る栃木工場でのワークショップ（9月22日）の2回構成で実施しました。

オンライン講演には約150名が参加し、「企業にとっての水リスク」「流域の水循環」「ウォーターポジティブの考え方」などを学びました。

ワークショップには20名が参加し、「栃木工場の水づかいを循環型・持続可能なものにするためにはどうしたらいいか？」を、さまざまな部門の社員が考え、チームごとに発表する貴重な機会となりました。

このような、社員が自社の事業活動における「水」の重要性を再認識し、「水」に関する視野を広げる企画を継続していくことで、「人と社会と地球の健康」の実現に向かう「水づかい」につなげてまいります。

温泉地取材のお土産をプレゼント!

今号の取材で巡った温泉地のお土産を抽選で9名の読者に差し上げます。右の「72号アンケート」にWebから回答のうえ、ご応募ください。なお、お土産への応募期限は2022年12月31日(土)とさせていただきます。



②城崎温泉麦わら細工の「しおり」



①酸ヶ湯温泉「酸ヶ湯 温泉石けん&入浴剤」



③黒川温泉「よもぎ石鹸&入浴剤」

皆さまからの感想、
情報をお待ちしています!

『水の文化』72号のアンケートにご協力ください。機関誌『水の文化』をより充実したものにするため参考とさせていただきます。

回答はこちらから



<https://forms.office.com/r/JvjWrauss>

アンケート用紙をお持ちの方は
下記へご返信ください。

FAX: 03 (6784) 3056

編集後記

温度が25度でも温泉。皆様は温泉の定義、ご存知でしたか? 私は初めて知りました。全国に数多ある温泉の中、今回取材させていただいたのはほんの一部ではありますが、温泉の魅力とともに、「へえ、そうなんだ。」と、人に話したくなるような小ネタもお届けできる一冊になっていれば、と思います。(今)

今号の取材を通じて、温泉も限られた資源であるという当たり前のことに気がついた。また、湯あみ着の着用で、多様な人が温泉を楽しむことができる配慮が古くからなされていたことに驚いた。持続可能性・多様性……古来、国民的な人気を得続けている温泉には、今必要とされている精神がギュッと詰まっているのだな、と感慨も新たに、久しぶりに温泉に行きたいな。(松)

過去に暮らしていた地方には「温泉団地」なるものがあり、温泉付き分譲住宅地でした。しかしそこに住む知人曰く、給湯器が温泉の成分で普通よりも早く傷むなど、維持管理は少し大変という話でした。個人宅のお風呂場で大変なのだから、温泉宿などはもっと維持管理が大変なのだろうと思います。旅先の大浴場や露天風呂を気持ちよく使わせていただける事に改めて感謝したいと思います。(飯)

温泉のことを知らなすぎたらしい。3万近くある源泉、それに伴う温泉地が3千弱、それらが47都道府県全てに存在することにまず驚いた。沖縄や伊豆諸島などの離島にもある。これは火山列島である日本ならではの、世界と比べて知りたいところだ。温泉の効能にしても眉唾だと思っていたことが医学的な裏付けがあることを知った。行ってみたい温泉地も見つかったし、充実した特集でした。(力)

溪流釣りの後によく訪れる南会津の湯ノ花温泉。4つある共同湯のうち混浴の2つは敬遠していたが、ある日、お気に入りの湯が大混雑。試しに混浴共同湯を覗くと誰もいない。そっと入り、熱々の湯を堪能していると老婦人が戸を開けた。慌てて出ようとする私を制して「子どもの頃から混浴なので気になりませんよ」と言い、気づくと湯船に浸かっている。その滑らかな所作に温泉文化を感じた。(前)

ミツカン水の文化センター機関誌

水の文化 第72号

ホームページアドレス

<https://www.mizukan.gr.jp/>

発行

ミツカン水の文化センター

〒104-0033 東京都中央区新川 1-22-15 茅場町中塾ビル

株式会社 Mizukan Partners

Tel. 03 (3555) 2607 Fax. 03 (3297) 8578

発行日

2022年(令和4年)11月初版1刷

企画協力 (氏名50音順)

沖 大幹 東京大学大学院工学系研究科教授

古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会

陣内秀信 法政大学名誉教授

鳥越皓之 大手前大学教授

制作

今村浩二

松本裕佳

鈴木彩乃

青木広実

小林夕夏

久保悦史

飯野真奈実

編集製作

前川太一郎 編集

中野公力 デザイン・撮影

蔵田 豊 デザイン

執筆

佐々木 聖 (pp.10-13, p.24)

手塚ひとみ (pp.25-29)

開 洋美 (pp.20-23, pp.42-43)

前川太一郎 (pp.6-9, pp.14-19)

撮影

大平正美 (pp.16-19)

川本聖哉 (pp.4-5, pp.26-29)

藤牧徹也 (pp.10-13, pp.20-23, pp.36-41)

渡邊まり子 (p.14, pp.42-43)

印刷

中塾総合印刷株式会社